

校内研究活性化プロジェクト研究通信

第14号 令和5年(2023年)12月15日発行

冬の冷たい空気が身にしみる頃となりました。実践校のみなさまにおかれましては、2学期を締めくくる時期であり、児童生徒と向き合いながら3学期に向けての目標を見据え、日々の教育活動に邁進されていることと思います。

プロ研通信第14号では、11月14日(火)に開催した校内研究主任パワーアップ研修[小学校・中学校][第3回]と合同で開催した第7回校内研究活性化プロジェクト研究会での研究委員のみなさんの学びを振り返ります。研究委員のみなさんには、「校内研究省察ポスター」を使って自校の校内研究について他の参加者の前で発表していただきました。これまでの実践を堂々と発表されている研究委員のみなさんの様子をお伝えします。

第7回 プロジェクト研究会 概要

第7回プロジェクト研究会のめあて

校内研究主任としての職務および校内研究を組織的に推進するための明確なビジョンと手法を学ぶ。

他校の取組に学ぶ

13:45～ 2学期の校内研究の実践交流 - 「校内研究プランシート」を基に -

研修に参加された校内研究主任のみなさんは、「校内研究プランシート」を基に、自校の2学期の実践を振り返りながら交流されていました。8月3日(木)に開催した第4回校内研究活性化プロジェクト研究会(校内研究主任パワーアップ研修[小学校・中学校][第2回])でも同じく、グループごとの実践交流を行いました。今回の交流では前回以上に各校の創意工夫を凝らした実践が発表されました。他校の実践を聞き、細かにメモを取っておられる先生ばかりで、校内研究主任同士による「協働的な学び」が充実した時間となっていると感じました。

研究委員のみなさんがグループで話しておられる様子を拝見すると、本当によい表情でこれまでに積み上げてこられた数々の実践について語っておられました。プロジェクト研究会や各校の訪問を通して、研究委員のみなさんが校内研究について何度も試行錯誤されてきたことをうかがっているのが、語られる実践への思いの強さを感じながら聞かせていただきました。



実践交流の様子①



実践交流の様子②

14:15～ 【事例発表】1年間の校内研究のまとめと次年度に向けて校内研究主任の果たす役割

「人が学ぶ」という視点は大人も子どもも共通しているという考えのもと、「読み解く力」を踏まえた「O小スタイル」をベースとした校内研究のあり方について事例発表をしていただきました。

「そもそも『校内研究』とは、何のために、誰のためにしているとお考えでしょうか」という問いかけがとても印象的で、教員の成長の先に子どもたちの豊かな学びの姿をはっきりと見据えておられることが発表の内容から伝わってきました。

豊富な実践事例から、教員の主体的な学びのサイクルを、子どもの主体的な学びのサイクルにつなげていくための多くの示唆をいただきました。

実際の通信では、A中学校のB先生が昨年度の実践を発表する様子を写した写真を掲載していました。

昨年度実践校
A小学校のB先生

研修に参加された校内研究主任の感想(一部抜粋)

- ・「研究授業ありきの校内研究になっていないか」という言葉がすごく心に刺さりました。次年度の研究について構想を練っていく際に、全ての先生が主体的に取り組んでいけるように話し合っていきたいと思います。
- ・A小学校での校内研究の進め方をお聞きし、大変参考になりました。どの学校でも教員自身の振り返りを大切にしておられ、子どもも教員も個別最適な学びができるようにしていきたいと思いました。
- ・A小学校の実践を聞き、研究のスタート時にいかにゴールを明確化し、長期と短期の見通しをもつことが大切か分かりました。

令和5年度研究委員による事例発表

15:00～ 令和5年度校内研究活性化プロジェクト研究実践校の「校内研究省察ポスター」紹介

初めに、研究委員のみなさんには全体に、自校の校内研究について1分間で説明をしていただきました。学校規模、研究主題、校内研究の特徴、これまでの取組の見どころを参加者に向けてアピールしていただき、その後のポスターセッションに移りました。

発表前は和やかな表情で会話されていた研究員のみなさんですが、ポスターセッションでは各校の校内研究の実践を堂々と語っておられました。参観者から時間いっぱい多くの質問が出されたことから、各校の実践の注目度の高さが伝わってきました。



発表前的一幕

令和5年度

総合教育センター研究員研究

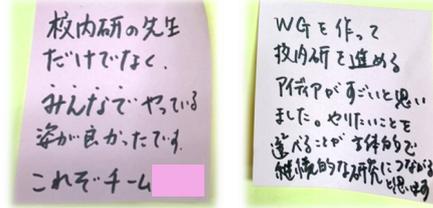
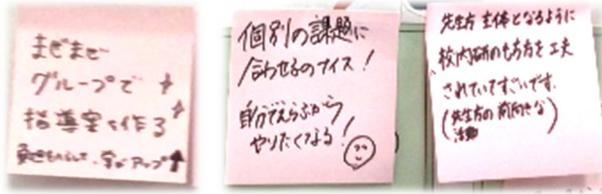
校内研究活性化

プロジェクト研究

実際の通信では、ポスターセッションの様子を写した写真を掲載しました。

研修に参加された校内研究主任の感想(一部抜粋)

- 各学校で取り組まれた「校内研究省察ポスター」の発表を聞き、全ての教員が自分事として校内研究に関わっていくことが大切だと感じました。そのために、教えていただいた方策を自校でもアレンジしながら取り入れていきたいと思えます。
- 課題別にチームを作り、校内研究を行っている学校が多かったため、来年度は職員とも話し合い、チームの持ち方についても考えていきたいと思えます。
- Z中学校の実践からグループでの校内研究の可能性を感じた。研究主題に対しての手立てでグループ分けしている学校もあり、今後の進め方の参考となった。次年度の進め方を模索していたタイミングだったのでありがたかった。
- 「校内研究省察ポスター」紹介では、W小学校の実践から、小規模校でも効果的に学び合えるグループ協議の仕方が参考になりました。
- 校内研究で学んだことをどのように共有するかが自校の課題の一つでした。Y小学校の発表より、指導案をデータ化してそこに書き込んでいくことが研究協議の充実につながっていると聞き、実践したくなりました。
- 「校内研究省察ポスター」紹介は、とても刺激になりました。教師自身が意欲的に学び、力を付けられるようにしていくために、今年度をきちんと振り返り、次年度に向けて考えていきたいです。



参観者からの感想が書かれた付箋

15:30～ 「校内研究省察ポスター」ルーブリックを使った自己評価

「校内研究省察ポスター」紹介の後、他の研修参加者はグループに戻って年度末の校内研究のまとめに向けての協議をされていました。その時間に研究委員のみなさんには、研究員が作成した「校内研究省察ポスター」ルーブリックを使った自己評価をしていただきました。

令和5年度 校内研究活性化プロジェクト研究会 校内研究省察ポスターについて	
1. 作成のねらい(目的) 1学期の校内研究の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実している場面を振り返り、価値付けする	
2. 評価指標について	
評価観点	評価基準
研究委員の学びと校内研究のつながり	【評価項目】①研究委員のプロジェクト研究会や実施された校内研究会、その他の研修等での学びと校内研究での実践のつながり ②校内研究での実践から、研究委員の学びへのフィードバック ①と②が読み取れる。 ①が読み取れる。 ①が読み取れない。
抽出教員の「個別最適な学び」と「協働的な学び」	【評価項目】①抽出教員の「個別最適な学び」が充実していることが読み取れる。 ②抽出教員の「協働的な学び」が充実していることが読み取れる。 ③抽出教員の「個別最適な学び」と「協働的な学び」のつながっている部分がある。 *「充実」とは、次の3要件を満たしている状態を言う 【要件1】課題・取組や手立てが明確【要件2】主体的な姿勢が見られる【要件3】学びを通じた今後の取組や手立てが明確 ①②を満たし、③の部分が3つ以上ある。 ①②を満たし、③の部分が2つ以内。 ①②の両方、もしくはいずれか1つを満たしている。
抽出教員の学びと授業および抽出児童生徒の学びの変化	【評価項目】①抽出教員の学びが、授業に反映されていること ②抽出児童生徒の変化へのつながり ③抽出児童生徒の変化から、抽出教員が成果や課題を見取り、次の学びへと生かしていること ①と②と③が読み取れる。 ①と②が読み取れる。 ①が読み取れず、①と②のつながりが不明瞭。
1学期の成果と課題	【評価項目】①校内研究の取組から成果と課題が書かれている。 ②抽出教員・児童生徒の(学びの様子や実態から)成果と課題が書かれている。 ①と②のつながりを考察したうえで記述されていることが読み取れる。 ①と②の両方が記述されている。 ①②のいずれか一方が記述されている。
2学期以降の取組の計画	【評価項目】①1学期の成果・課題を踏まえた2学期以降の取組が書かれている。 ②①の内容が、実践校の校内研究主題や目指す児童生徒像・教師像を踏まえた内容になっている。 ①の内容が、具体的に書かれている。 ①の内容が書かれている。
省察ポスターの共有・活用	【評価項目】①省察ポスターを提示して、作成の意図やポスターの読み取り方を伝えた。 ②ポスターを職員が目にする場所に掲示している。 ③掲示したポスターを見直ししたり、ポスターに付箋を使って追記したりする時間を取っている。 ①②③をすべて満たしている。 ①と②の両方、もしくはいずれか一方が満たしている。 省察ポスターを提示して、作成したことを伝えた。



研究委員同士で省察する様子



自己評価する様子



専門委員と省察する様子

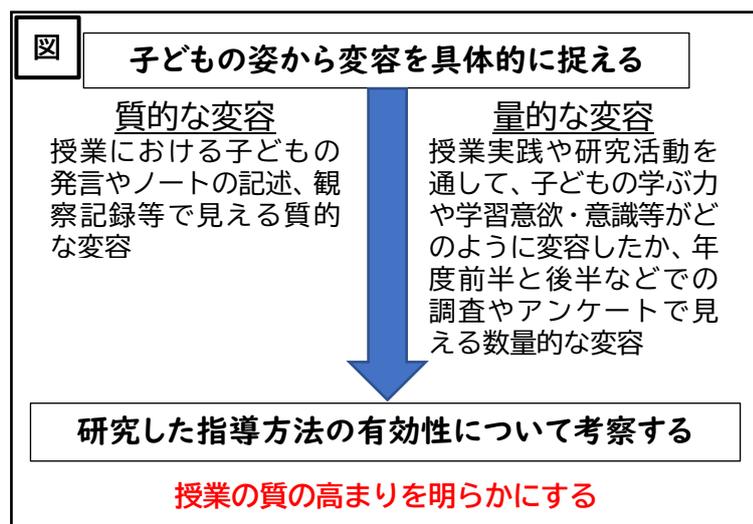
研究委員のみなさん、事例発表ありがとうございました！年度途中でありますが、これまでの取組を御自身で言語化していただいたことと、参観者のみなさんから御意見をいただいたことで、自校の校内研究を省察できたのではないのでしょうか。また、ルーブリックを使った自己評価からも自校の取組の強みと課題を見つけていただけましたね！



滋賀大学教育学部附属小学校 副校長 楠見 丹生子先生による御講義より

15:45～ 【講義】「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた校内研究の省察の在り方

本研究の専門委員である楠見先生より、御講義をいただきました。「これからは、子どもも教師も学び手。個別最適な学びと協働的な学びを一体化させた『わたしたちならでは』の校内研究へ」という言葉で今年度のプロジェクト研究およびパワーアップ研修を端的にまとめていただきました。また、教員が学びやすく、風通しのよい環境や仕組みづくりについても、とてもわかりやす



※楠見先生のスライドを基に研究員が作成

く教えていただきました。中でも、本講義の主題にもなっている「校内研究の省察」を、年度の間地点で行い、改善に取り組むことが大切であると教えていただきました。

「研究の省察の基本的な在り方」としてお話しいただいた、「研究結果の分析と考察について」(図)は、毎日の授業や研究授業の省察をする際に忘れてはならない大切な視点だと感じました。常に目の前にいる子どもたちの姿を捉え、よりよい授業でよりよい学びを提供していきたいですね。

研究委員のみなさんの振り返り

○事例発表と研究協議より

- ・実際に学校で進めておられる校内研究について詳しく教えていただいて、そんな方法があるのだと目からうろこでした。自校の先生方のニーズは何か、改めて見直す必要があると感じました。自分の校内研究主任としての学びを他校の先生に伝えたことで、これまでの自分の取組を見つめ直すことができました。
- ・研究授業が一段落してきて、次年度に向けて何を目的にどのような取組をしていくとよいか分かりました。昨年度は、年度末に慌てて成果と課題をまとめていたので今年度は計画的に次年度につなげていきたいと思いました。他校の省察ポスターを見て、抽出教員と抽出児童の学びの姿のまとめ方とその方向性が見えました。
- ・「Aスタイル」として教師も児童も同じ考えて学ぶ方法が有効だと感じました。また、授業研究だけでなく、知識を得るのも一つの方法だと思いました。SWOT分析等を用いて、来年度の方向性を職員で共有して決めていきたいです。
- ・自校の校内研究の取組について省察ポスターを書き、発表できたことは、自分の大きな学びとなりました。たくさん質問もいただき、自分の考えも整理することができました。そして、足りない部分に気付くことができました。
- ・A小学校のB先生の話から様々な方法で教職員を巻き込む術をもらいました。ヒントを得ることができたので、使っていけるものは実践していきたいと思っています。また、自校以外の4校の実践を見聞きすることで、他校の実践から学ぶことができました。

○楠見先生の御講義より

- ・今年度の研究を省察する際には、主任一人で考えるのではなく、本校の先生方と一緒にまとめていきたいです。そして、来年度のよりよい研究の形につなげていけるようにしたいです。自校の先生方を大切に、主体的に学ぶことができ、かつ自校に合う方法を見つけていきたいです。
- ・1年間の研究の成果物を作るときに、型や紀要などは作ったことがあるのですが、ツールを作ったことがなかったので参考にしたいと思いました。本校の今年度の実践としてはツール作りが合っていると思いました。
- ・年度末の省察に向けてのヒントがたくさんあり、その中でも「子どもの姿から変容を具体的に捉える」ということが大事だと思いました。来年度につながる校内研究になるように省察したいと思います。
- ・校内研究で学んだことを自分にどう生かしていき、その学びをより深化させていくために次年度どうしていくのか、先を見て取り組んでいく大切さを改めて感じました。たくさんの学校の様々な事例を研修で聞くことができ、本当に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・この1年間を通して、「自分事」として捉えられる研究にしないといけないと実感しました。先生方が「やるぞ」としてもらえるテーマや仕掛けが何よりも大切だと感じました。次年度に生かしていきたいと思います。

第7回プロジェクト研究会を終えて、研究員の思いと今後に向けて

今回の校内研究主任パワーアップ研修[小学校・中学校]でプロジェクト研究会との全3回の合同開催が終了となりました。プロジェクト研究会単体での開催と異なり、研修に参加された他校の校内研究主任たちと協議を通して協働的に学び、研究委員のみなさんは、たくさんの刺激を受けられたのではないかと思います。

ある学校の校内研究主任の方から「やはり校内研究紀要は作らなければいけませんよね？」とお声かけをいただき、お話をさせていただきました。私たちの結論から申しますと「『作らなければいけないもの』と、義務感で作るようなものではない」と思います。ただ、1年間の校内研究を通しての教員一人ひとり学びを価値付けするために研究紀要はとても有用なものであることは間違いありません。

今年度私たちは、このプロ研通信を書くことで、研究委員のみなさんや実践校の教員のみなさんの学びをまとめさせていただきました。このことを通じて、自分自身の学びも可視化(自覚)することができたと感じています。日々子どもたちに全力で向き合い、多忙な日々を送っておられることと思いますが、みなさんで学びを可視化(自覚)する機会を設定していただくことが大切なのだと思います。



研究員 いなます けいご
稲益 圭吾



研究員 しまうち ゆうしょう
島内 佑祥

～ 御 礼 ～

プロジェクト研究会でみなさんが作られた「校内研究省察ポスター」の内容があまりにも素晴らしく、また、各校での活用が校内研究を前進させる大きな力になったということでしたので、ぜひとも多くの先生方にお聞き頂きたいと思い、発表をお願いしました。どのブースでも参加者の先生方の質問が途切れることなく、先生方の取組の充実度がうかがえました。お願いして本当によかったです。ありがとうございました。来年度の研修でもよろしくお願ひします。



校内研究主任
パワーアップ研修
担当 加藤 由紀